

全日本医師テニス大会 (2009-2013) における 障害調査



日本医師テニス協会

担当：林 光俊
桂木 昌子
秋原 博道
原 文雄
矢住 孝昭
イラスト：石川正順

(2014.08.11作成)

【目的】

1大会で約300名が出場する
医師のテニス全国大会における
テニススタイル と 障害調査
医師ならではの治療・予防方法を調査した



開会式

【方法】

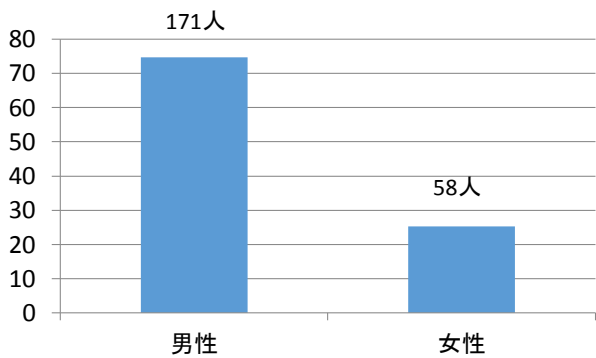
全日本医師テニス大会

09年10月 広島大会
10年10月 山口大会
11年10月 千葉大会
12年11月 熊本大会
13年10月 大阪大会

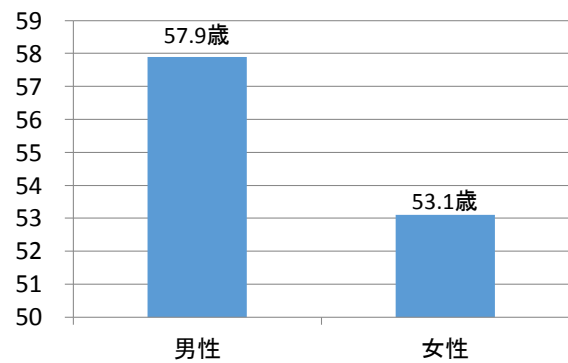
に参加した選手へ

37項目のアンケート調査を行った
アンケートは重複提出を避けた(一人一回のみ)

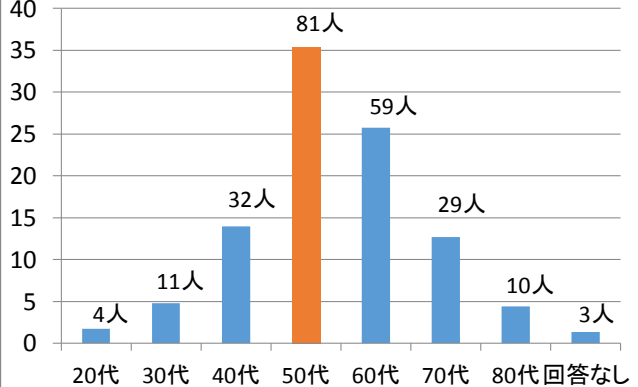
A・性別 N=229



B・平均年齢 N=229



C・年代別 N=229



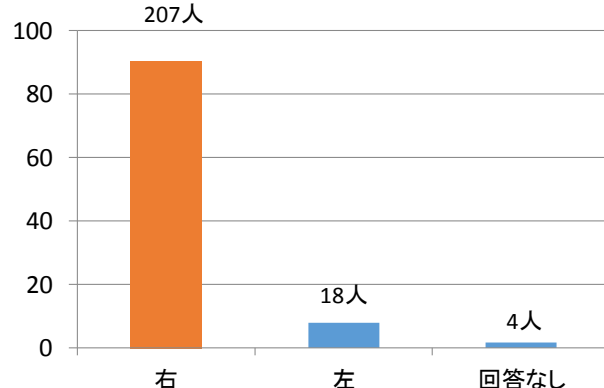
テニスを始めた年齢は10才代が最も多く43.2%で、
経験年数は30年以上が45.0%と最も多かった。

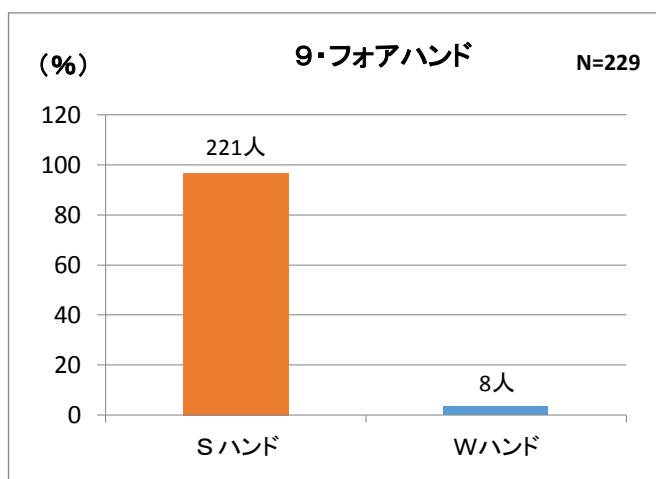
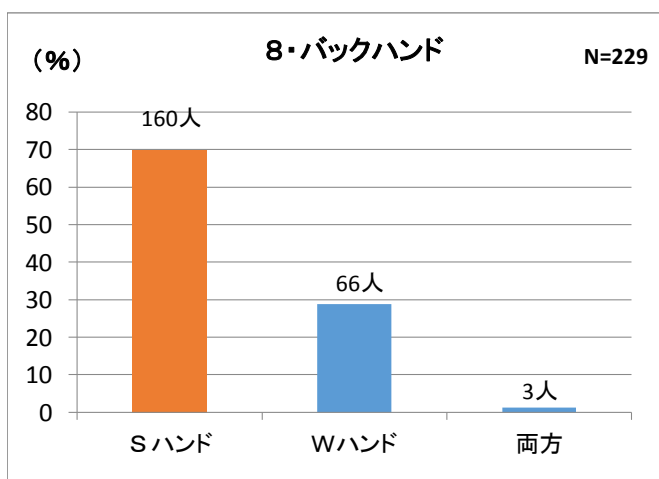
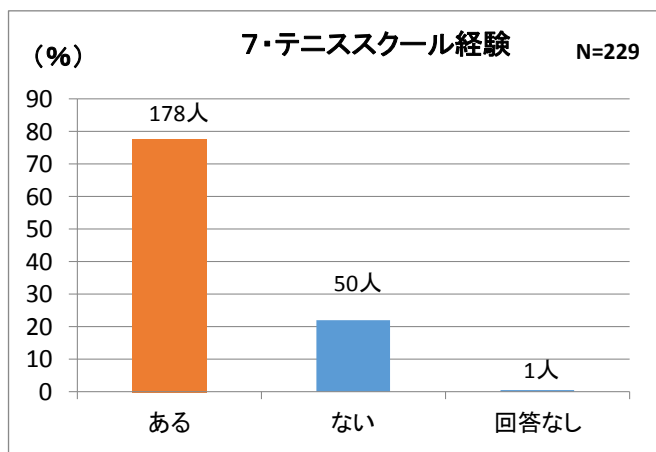
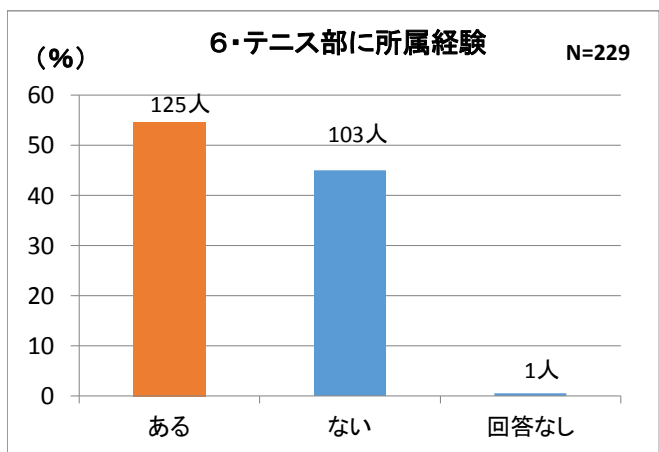
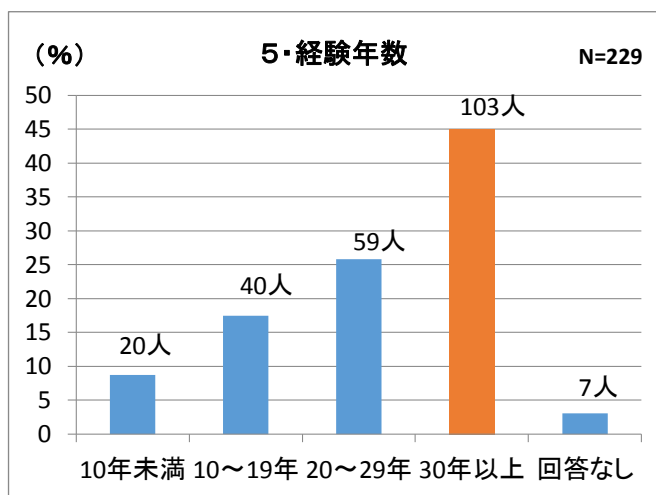
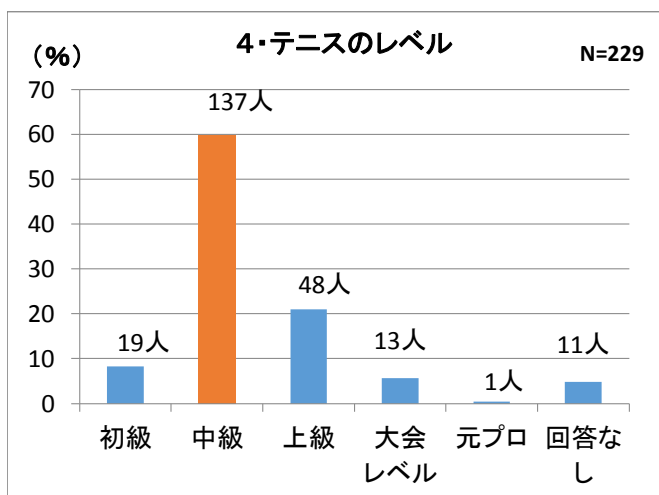
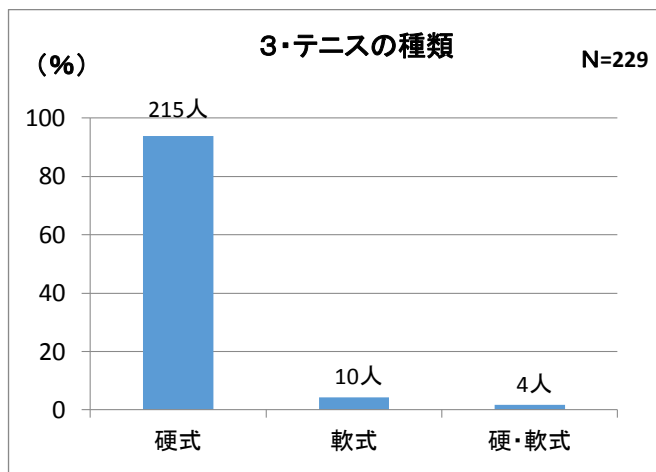
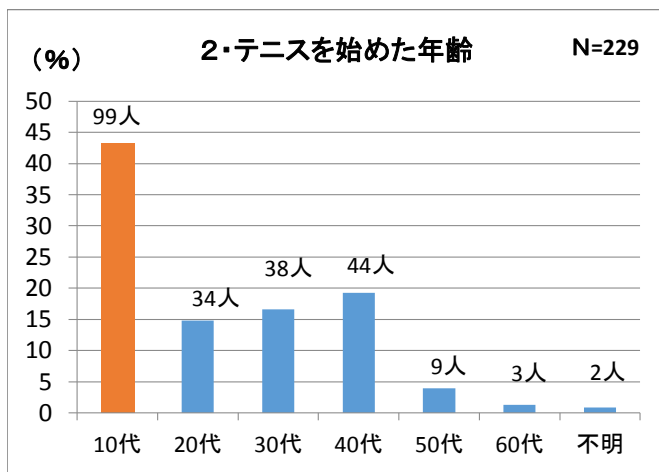
(自己評価) テニスレベルは
中級が59.8%、
中上級者以上で80.8%を占め、
皆テニス腕自慢者であった。

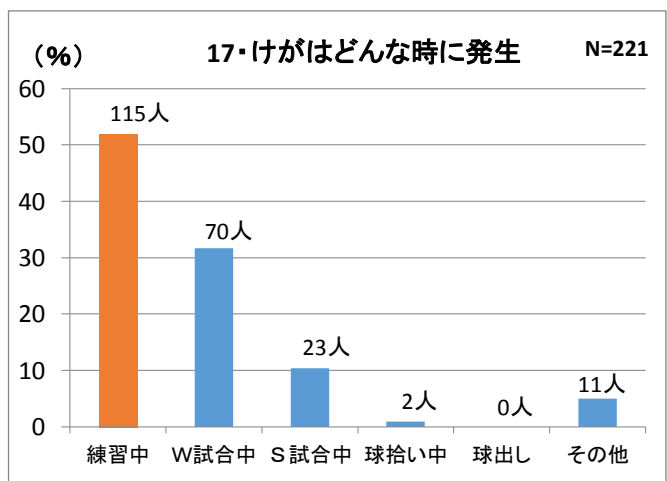
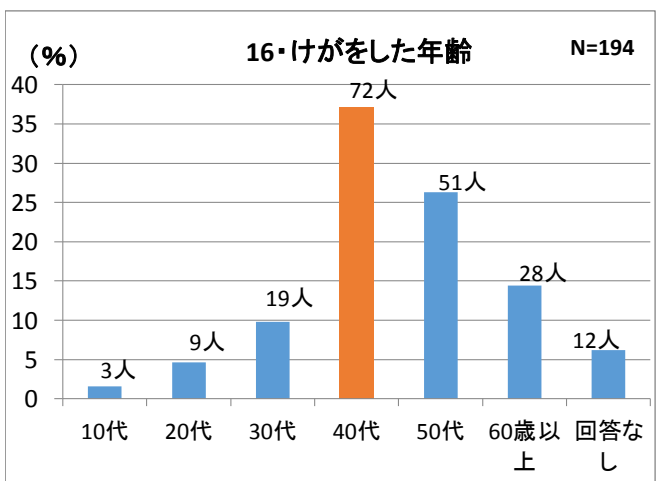
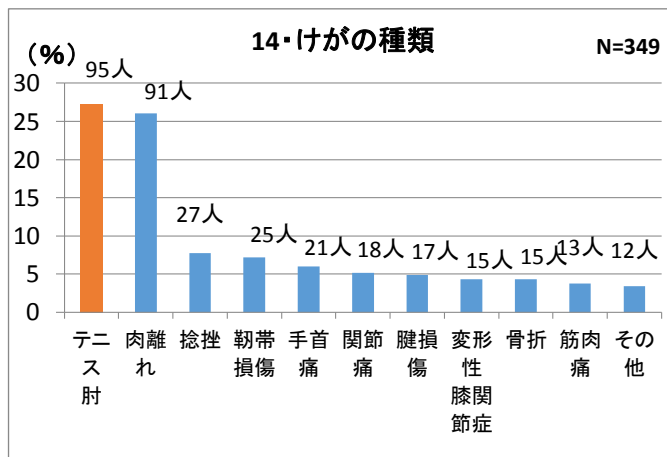
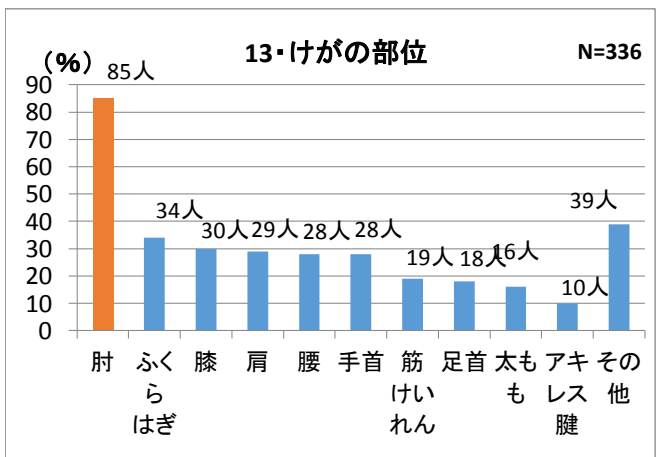
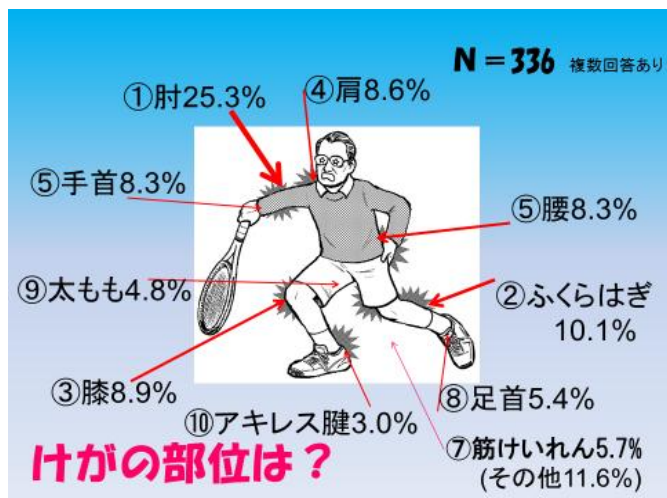
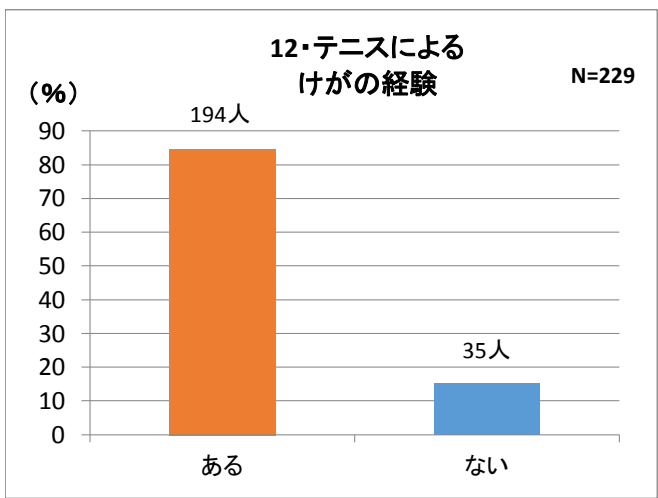
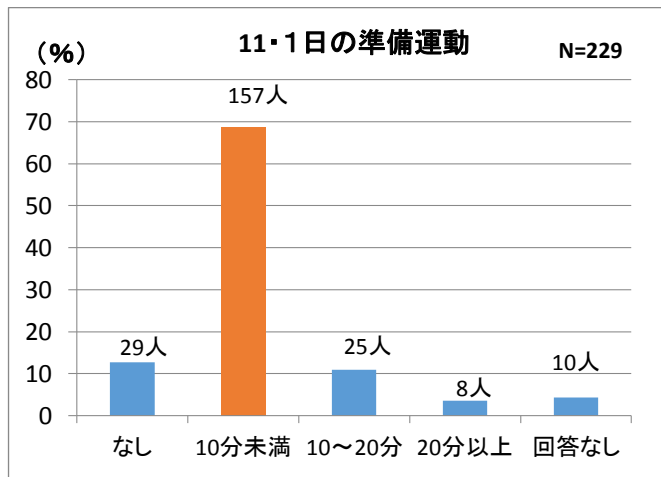
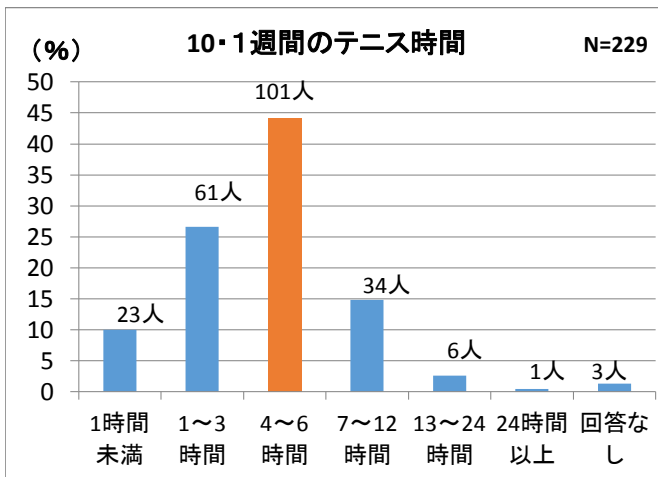
学生時代にテニス部経験者は
54.6%で、
テニススクール経験者は77.7%と、自己流選手は少ない。

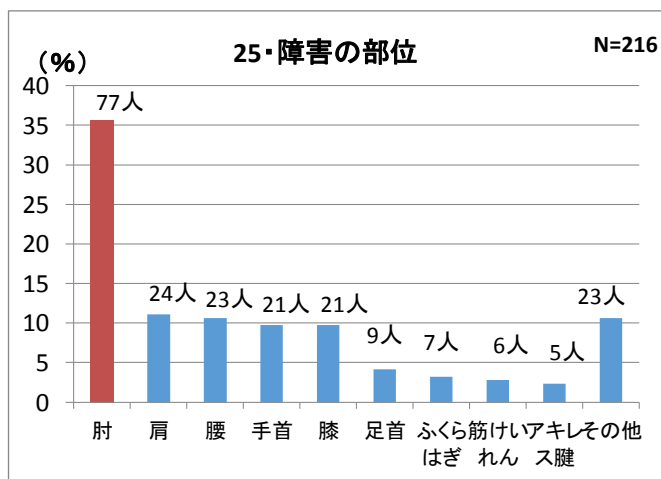
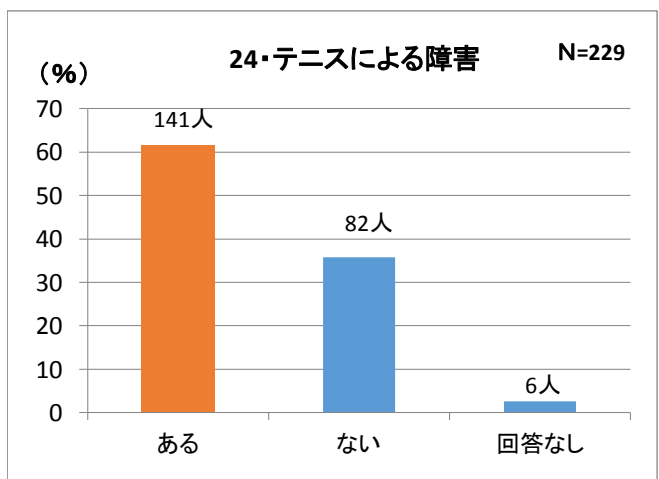
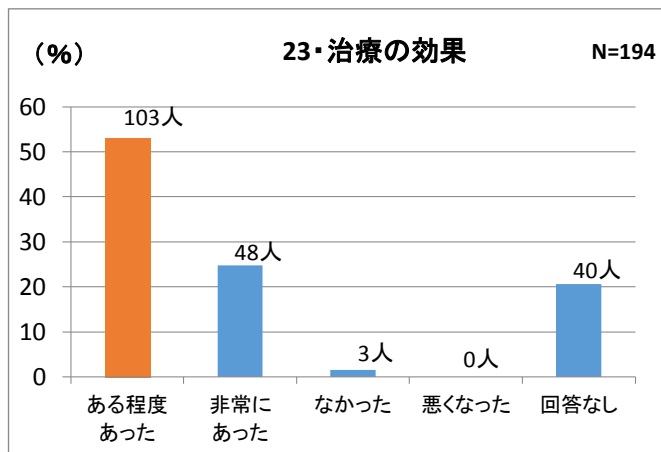
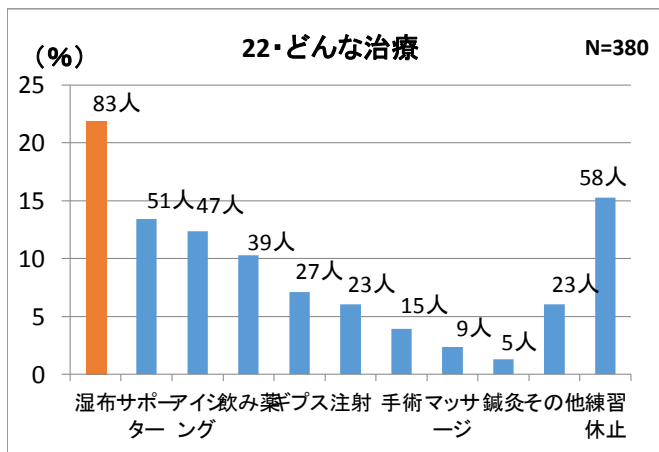
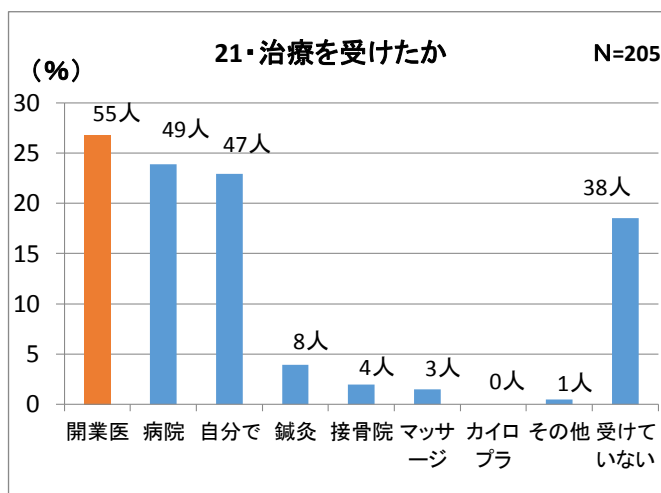
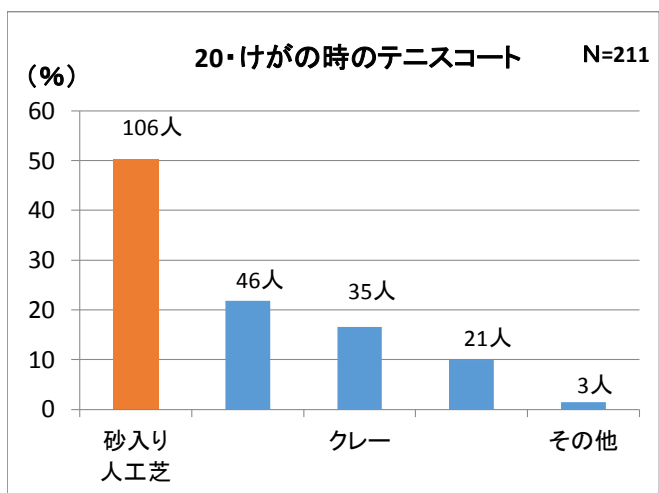
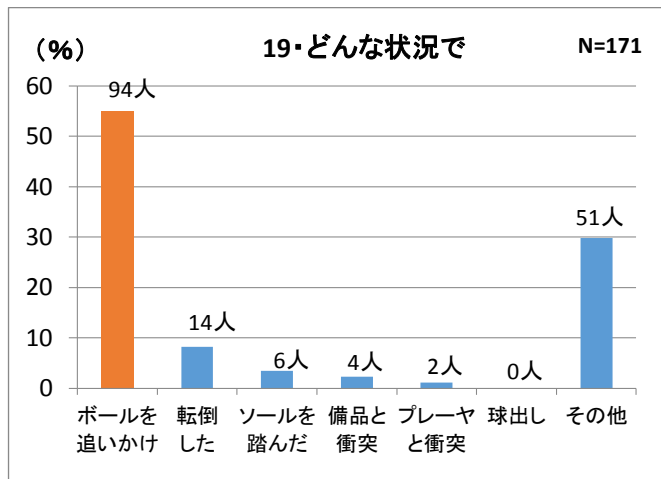
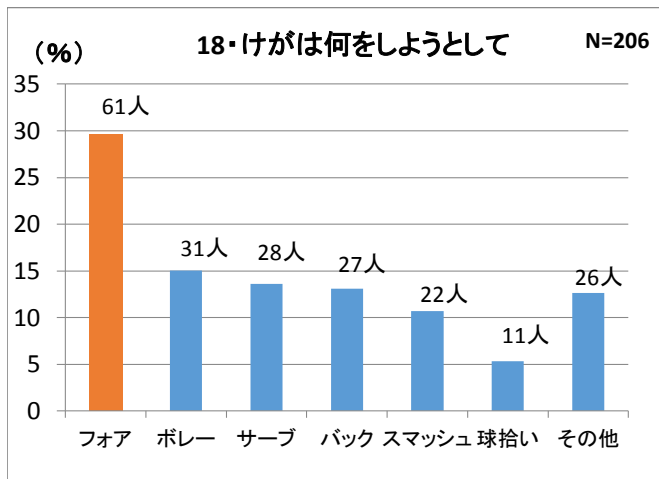


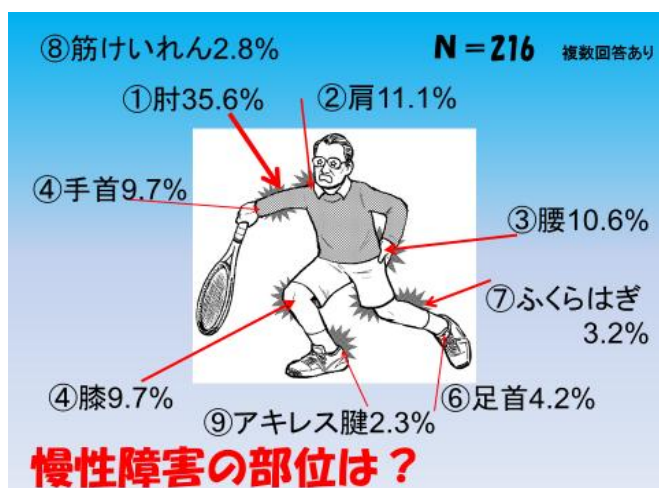
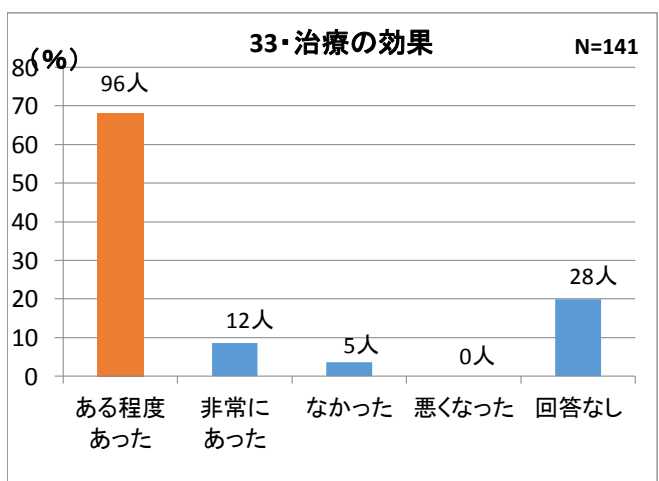
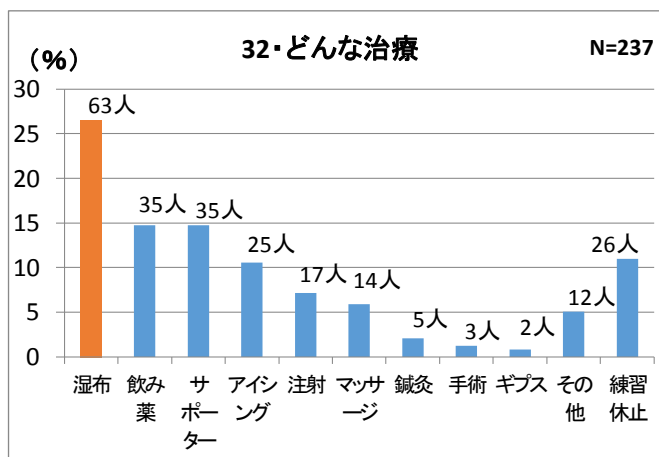
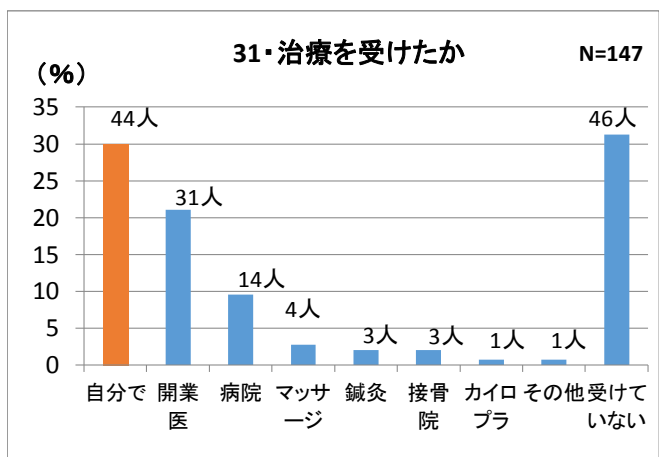
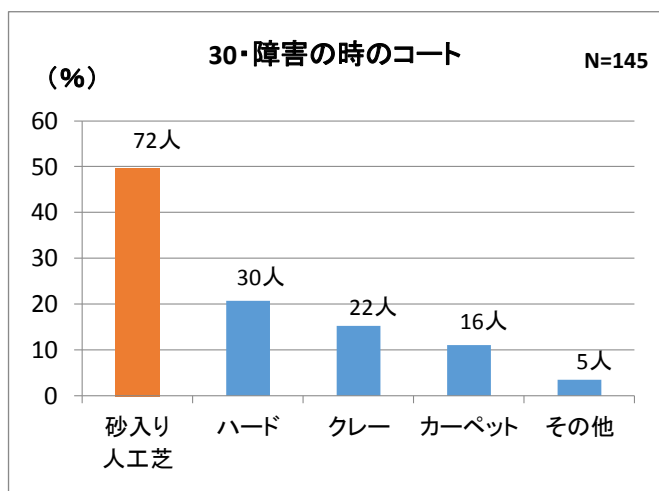
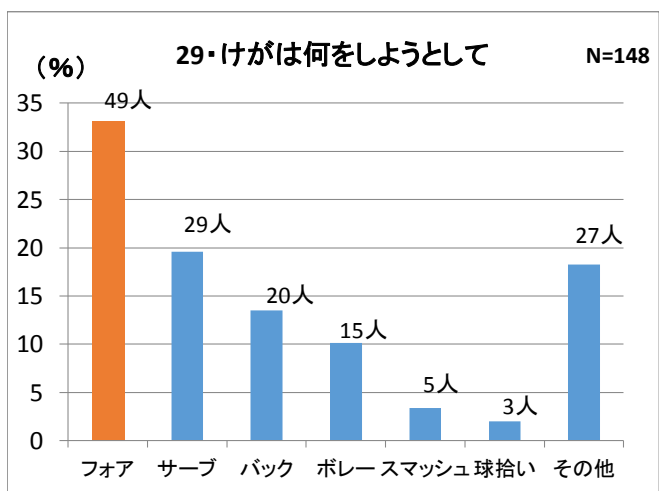
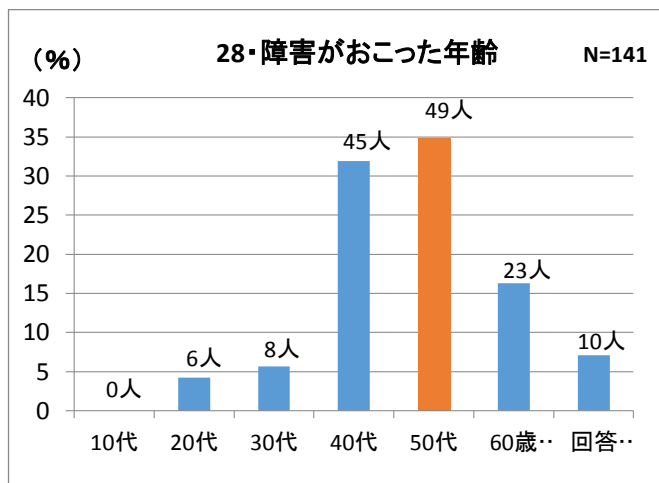
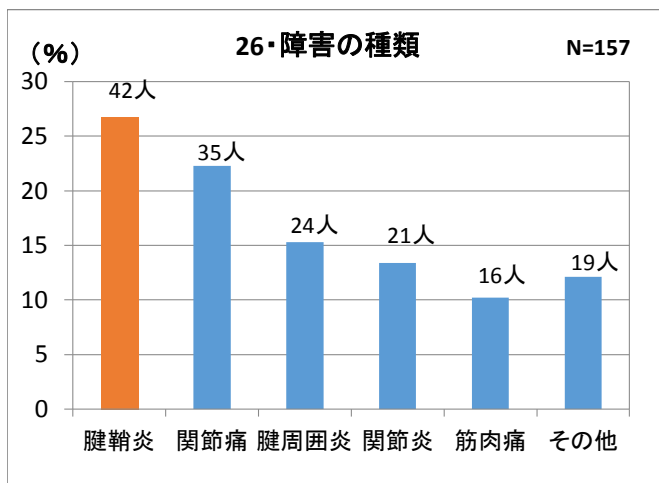
1・利き腕 N=229

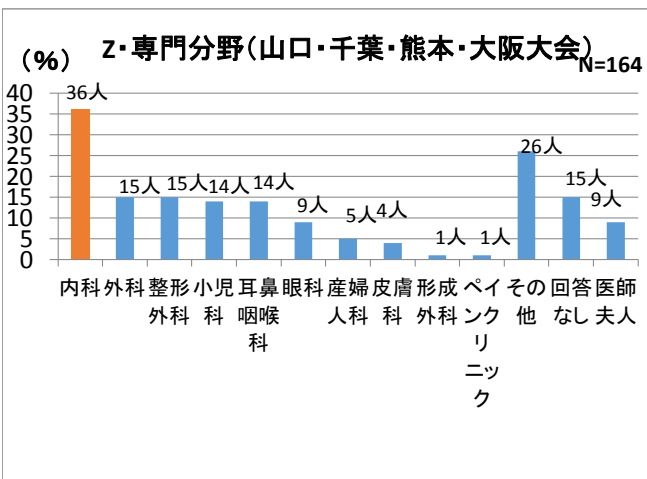
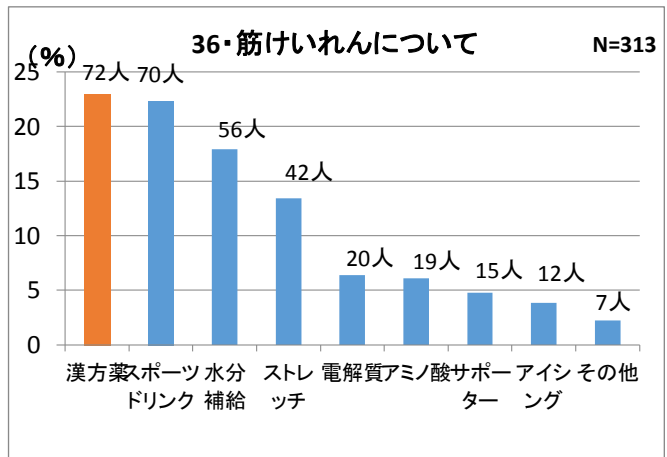
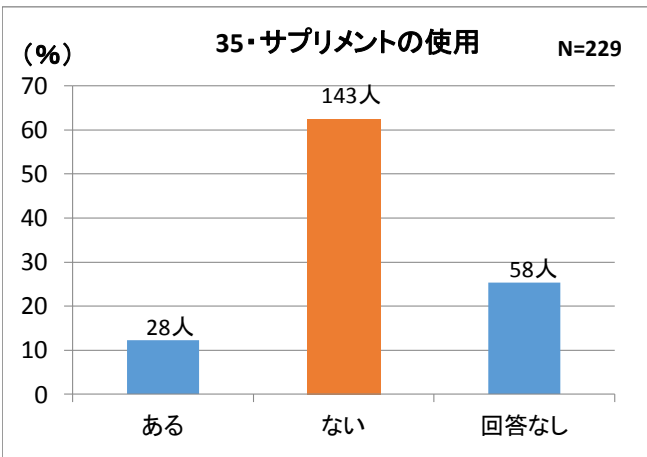
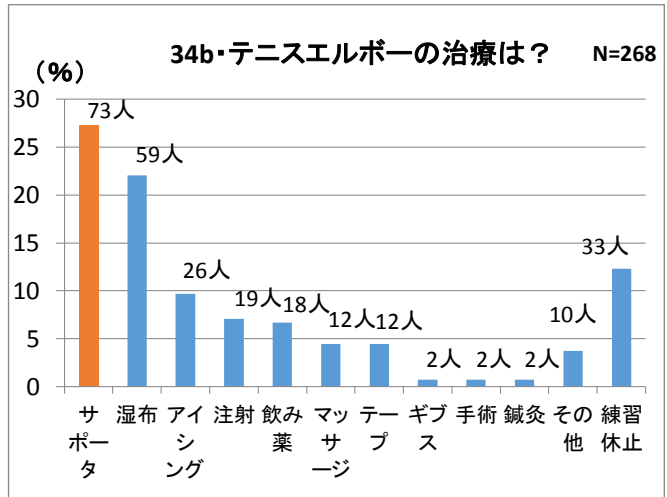
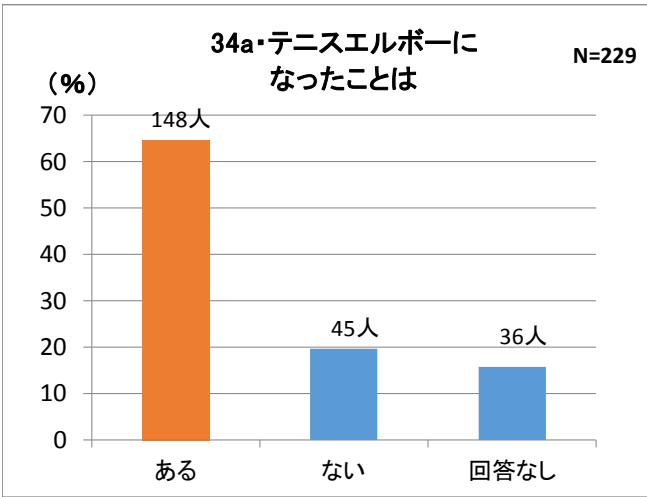












参加した平均的医師テニス選手像

平均年齢**58歳** 経験年数**30年以上** 主に中上級者
 フリースタイル：**片手フォア** & **片手バックハンド**

準備運動**10分未満** (あまりしない)
 怪我しても**自分で治す?** タイフが多い。
 独特の治療法は持っているようで、、、**ホント?**
 怪我に対する診断などは**的確に把握していた。**

まとめ

参加者最高年齢**87歳**の2名を筆頭に、
医師テニス競技の
全国大会に参加した選手は、
経験年数が**30年**以上で、
平均年齢が**58才**と一般競技に比べ
高かった。

演者自身が大会に参加した印象として、
テニス好き医師は**自身で健康管理に努め**、

テニスライフを**エンジョイ**しており、
年齢が高くなっても**元気に活動**していた。
(見習いたい!)



佐賀グラスコートテニス

ご協力ありがとうございました

Game set & match



Japan Medical Tennis Society
2014.08.11 作成